

科目名	鍵盤楽器演奏Ⅰ（伴奏法を含む）			担当教員	村田 睦美	
単位	1単位	講義区分	講義		ナンバリング	ED1MIM101
期待される学修成果	基礎教養 教科教育					
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク					
実務経験						
実務経験を生かした授業内容						
到達目標及びテーマ	ピアノを演奏するために必要な基礎力、及び基本的な演奏技術と表現を身につける。最終回の実技発表では暗譜で演奏できる。また伴奏法については、歌唱の伴奏を通して音を意識して聴くこと、自分の演奏を客観的に捉えること、歌唱に合わせて適切に演奏する技術を習得できる。					
授業の概要	受講生それぞれのピアノ演奏技能のレベルや進度に応じて課題曲を設定し、個人及びグループによる実技レッスンの形式で授業を進めていく。ピアノ演奏における身体の使い方や姿勢、スケール、アルペジオ、重音等、今後のピアノ作品の演奏に必要な演奏技能をエクササイズや練習曲を通して学んでいく。取り組みの成果を発表し、演奏における解釈や表現についてグループで討論を行う。					

授業計画	
第1回	今までの学習を確認、各自の課題曲の設定
第2回	基本的な演奏技術のエクササイズⅠ
第3回	基本的な演奏技術のエクササイズⅡ
第4回	基本的な演奏技術のエクササイズⅢ
第5回	基本的な演奏技術の確認のための発表
第6回	伴奏法Ⅰ 楽曲分析
第7回	伴奏法Ⅱ 演奏表現
第8回	伴奏法Ⅲ 伴奏合わせ
第9回	伴奏曲の発表・グループ討論
第10回	各自の練習曲の演奏Ⅰ 読譜のチェック
第11回	各自の練習曲の演奏Ⅱ 楽曲分析
第12回	各自の練習曲の演奏Ⅲ 演奏表現
第13回	各自の練習曲の演奏Ⅳ 暗譜
第14回	各自の練習曲の演奏Ⅴ 仕上げ
第15回	各自の練習曲の成果発表・グループ討論

事前学修	0.5時間	各回の授業時に次回までの課題を指示するので、それに沿って練習しておくこと。
事後学修	0.5時間	各回の授業で教授された内容を楽譜に整理し、振り返りシートに記述する。課題箇所を練習し、その改善、克服に努めること。
フィードバックの方法	練習してきた課題曲について、レッスンを通して現在の学習課題がわかるようにフィードバックする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価	70%	実技の成果発表において、基本的な演奏技能や音楽表現を修得できたかを評価する。
上記以外の試験・平常点評価	30%	各回の授業に対して行ってくる予習の内容や取り組みを評価する。

補足事項	
------	--

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
ツェルニー30番練習曲	C.ツェルニー	全音楽譜出版社	978-4-11-103060-6	各自のレベルに合わせていずれかを使用
ツェルニー40番練習曲	C.ツェルニー	全音楽譜出版社	978-4-11-103070-5	各自のレベルに合わせていずれかを使用
ツェルニー50番練習曲	C.ツェルニー	全音楽譜出版社	978-4-11-103080-4	各自のレベルに合わせていずれかを使用
中学生の音楽 1	教育芸術社編	教育芸術社	978-4-87788-850-3	なし
中学生の音楽2・3 上	教育芸術社編	教育芸術社	978-4-87788-851-0	なし
中学生の音楽 2・3下	教育芸術社編	教育芸術社	978-4-87788-852-7	なし
参考資料	全訳ハノンピアノ教本			

科目名	鍵盤楽器演奏Ⅰ（伴奏法を含む）			担当教員	小見山 純一	
単位	1単位	講義区分	講義		ナンバリング	ED1MIM101
期待される学修成果	基礎教養 教科教育					
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク					
実務経験						
実務経験を生かした授業内容						
到達目標及びテーマ	ピアノを演奏するために必要な基礎力、及び基本的な演奏技術と表現を身につける。最終回の実技発表では暗譜で演奏できる。また伴奏法については、歌唱の伴奏を通して音を意識して聴くこと、自分の演奏を客観的に捉えること、歌唱に合わせて適切に演奏する技術を習得できる。					
授業の概要	受講生それぞれのピアノ演奏技能のレベルや進度に応じて課題曲を設定し、個人及びグループによる実技レッスンの形式で授業を進めていく。ピアノ演奏における身体の使い方や姿勢、スケール、アルペジオ、重音等、今後のピアノ作品の演奏に必要な演奏技能をエクササイズや練習曲を通して学んでいく。取り組みの成果を発表し、演奏における解釈や表現についてグループで討論を行う。					

授業計画	
第1回	今までの学習を確認、各自の課題曲の設定
第2回	基本的な演奏技術のエクササイズⅠ
第3回	基本的な演奏技術のエクササイズⅡ
第4回	基本的な演奏技術のエクササイズⅢ
第5回	基本的な演奏技術の確認のための発表
第6回	伴奏法Ⅰ 楽曲分析
第7回	伴奏法Ⅱ 演奏表現
第8回	伴奏法Ⅲ 伴奏合わせ
第9回	伴奏曲の発表・グループ討論
第10回	各自の練習曲の演奏Ⅰ 読譜のチェック
第11回	各自の練習曲の演奏Ⅱ 楽曲分析
第12回	各自の練習曲の演奏Ⅲ 演奏表現
第13回	各自の練習曲の演奏Ⅳ 暗譜
第14回	各自の練習曲の演奏Ⅴ 仕上げ
第15回	各自の練習曲の成果発表・グループ討論

事前学修	0.5時間	各回の授業時に次回までの課題を指示するので、それに沿って練習しておくこと。
事後学修	0.5時間	各回の授業で教授された内容を楽譜に整理し、振り返りシートに記述する。課題箇所を練習し、その改善、克服に努めること。
フィードバックの方法	練習してきた課題曲について、レッスンを通して現在の学習課題がわかるようにフィードバックする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価	70%	実技の成果発表において、基本的な演奏技能や音楽表現を修得できたかを評価する。
上記以外の試験・平常点評価	30%	各回の授業に対して行ってくる予習の内容や取り組みを評価する。

補足事項	
------	--

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
ツェルニー30番練習曲	C.ツェルニー	全音楽譜出版社	978-4-11-103060-6	各自のレベルに合わせていずれかを使用
ツェルニー40番練習曲	C.ツェルニー	全音楽譜出版社	978-4-11-103070-5	各自のレベルに合わせていずれかを使用
ツェルニー50番練習曲	C.ツェルニー	全音楽譜出版社	978-4-11-103080-4	各自のレベルに合わせていずれかを使用
中学生の音楽 1	教育芸術社編	教育芸術社	978-4-87788-850-3	なし
中学生の音楽2・3 上	教育芸術社編	教育芸術社	978-4-87788-851-0	なし
中学生の音楽 2・3下	教育芸術社編	教育芸術社	978-4-87788-852-7	なし
参考資料	全訳ハノンピアノ教本			

科目名	鍵盤楽器演奏Ⅰ（伴奏法を含む）			担当教員	市野 啓子
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED1MIM101
期待される学修成果	基礎教養 教科教育				
アクティブラーニングの要素	グループワーク				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	ピアノを演奏するために必要な基礎力、及び基本的な演奏技術と表現を身につける。最終回の実技発表では暗譜で演奏できる。また伴奏法については、歌唱の伴奏を通して音を意識して聴くこと、自分の演奏を客観的に捉えること、歌唱に合わせて適切に演奏する技術を習得できる。				
授業の概要	受講生それぞれのピアノ演奏技能のレベルや進度に応じて課題曲を設定し、個人及びグループによる実技レッスンの形式で授業を進めていく。ピアノ演奏における身体の使い方や姿勢、スケール、アルペジオ、重音等、今後のピアノ作品の演奏に必要な演奏技能をエクササイズや練習曲を通して学んでいく。取り組みの成果を発表し、演奏における解釈や表現についてグループで討論を行う。				

授業計画	
第1回	今までの学習を確認、各自の課題曲の設定
第2回	基本的な演奏技術のエクササイズⅠ
第3回	基本的な演奏技術のエクササイズⅡ
第4回	基本的な演奏技術のエクササイズⅢ
第5回	基本的な演奏技術の確認のための発表
第6回	伴奏法Ⅰ 楽曲分析
第7回	伴奏法Ⅱ 演奏表現
第8回	伴奏法Ⅲ 伴奏合わせ
第9回	伴奏曲の発表・グループ討論
第10回	各自の練習曲の演奏Ⅰ 読譜のチェック
第11回	各自の練習曲の演奏Ⅱ 楽曲分析
第12回	各自の練習曲の演奏Ⅲ 演奏表現
第13回	各自の練習曲の演奏Ⅳ 暗譜
第14回	各自の練習曲の演奏Ⅴ 仕上げ
第15回	各自の練習曲の成果発表・グループ討論

事前学修	0.5時間	各回の授業時に次回までの課題を指示するので、それに沿って練習しておくこと。
事後学修	0.5時間	各回の授業で教授された内容を楽譜に整理し、振り返りシートに記述する。課題箇所を練習し、その改善、克服に努めること。
フィードバックの方法	練習してきた課題曲について、レッスンを通して現在の学習課題がわかるようにフィードバックする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価	70%	実技の成果発表において、基本的な演奏技能や音楽表現を修得できたかを評価する。
上記以外の試験・平常点評価	30%	各回の授業に対して行ってくる予習の内容や取り組みを評価する。

補足事項	
------	--

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
ツェルニー30番練習曲	C.ツェルニー	全音楽譜出版社	978-4-11-103060-6	各自のレベルに合わせていずれかを使用
ツェルニー40番練習曲	C.ツェルニー	全音楽譜出版社	978-4-11-103070-5	各自のレベルに合わせていずれかを使用
ツェルニー50番練習曲	C.ツェルニー	全音楽譜出版社	978-4-11-103080-4	各自のレベルに合わせていずれかを使用
中学生の音楽 1	教育芸術社編	教育芸術社	978-4-87788-850-3	なし
中学生の音楽2・3 上	教育芸術社編	教育芸術社	978-4-87788-851-0	なし
中学生の音楽 2・3下	教育芸術社編	教育芸術社	978-4-87788-852-7	なし
参考資料	全訳ハノンピアノ教本			

科目名	鍵盤楽器演奏Ⅰ（伴奏法を含む）			担当教員	宮川 左知子	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED1MIM101	
期待される学修成果	基礎教養 教科教育					
アクティブラーニングの要素	グループワーク					
実務経験						
実務経験を生かした授業内容						
到達目標及びテーマ	ピアノを演奏するために必要な基礎力、及び基本的な演奏技術と表現を身につける。最終回の実技発表では暗譜で演奏できる。また伴奏法については、歌唱の伴奏を通して音を意識して聴くこと、自分の演奏を客観的に捉えること、歌唱に合わせて適切に演奏する技術を習得できる。					
授業の概要	受講生それぞれのピアノ演奏技能のレベルや進度に応じて課題曲を設定し、個人及びグループによる実技レッスンの形式で授業を進めていく。ピアノ演奏における身体の使い方や姿勢、スケール、アルペジオ、重音等、今後のピアノ作品の演奏に必要な演奏技能をエクササイズや練習曲を通して学んでいく。取り組みの成果を発表し、演奏における解釈や表現についてグループで討論を行う。					

授業計画	
第1回	今までの学習を確認、各自の課題曲の設定
第2回	基本的な演奏技術のエクササイズⅠ
第3回	基本的な演奏技術のエクササイズⅡ
第4回	基本的な演奏技術のエクササイズⅢ
第5回	基本的な演奏技術の確認のための発表
第6回	伴奏法Ⅰ 楽曲分析
第7回	伴奏法Ⅱ 演奏表現
第8回	伴奏法Ⅲ 伴奏合わせ
第9回	伴奏曲の発表・グループ討論
第10回	各自の練習曲の演奏Ⅰ 読譜のチェック
第11回	各自の練習曲の演奏Ⅱ 楽曲分析
第12回	各自の練習曲の演奏Ⅲ 演奏表現
第13回	各自の練習曲の演奏Ⅳ 暗譜
第14回	各自の練習曲の演奏Ⅴ 仕上げ
第15回	各自の練習曲の成果発表・グループ討論

事前学修	0.5時間	各回の授業時に次回までの課題を指示するので、それに沿って練習しておくこと。
事後学修	0.5時間	各回の授業で教授された内容を楽譜に整理し、振り返りシートに記述する。課題箇所を練習し、その改善、克服に努めること。
フィードバックの方法	練習してきた課題曲について、レッスンを通して現在の学習課題がわかるようにフィードバックする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価	70%	実技の成果発表において、基本的な演奏技能や音楽表現を修得できたかを評価する。
上記以外の試験・平常点評価	30%	各回の授業に対して行ってくる予習の内容や取り組みを評価する。

補足事項	
------	--

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
ツェルニー30番練習曲	C.ツェルニー	全音楽譜出版社	978-4-11-103060-6	各自のレベルに合わせていずれかを使用
ツェルニー40番練習曲	C.ツェルニー	全音楽譜出版社	978-4-11-103070-5	各自のレベルに合わせていずれかを使用
ツェルニー50番練習曲	C.ツェルニー	全音楽譜出版社	978-4-11-103080-4	各自のレベルに合わせていずれかを使用
中学生の音楽 1	教育芸術社編	教育芸術社	978-4-87788-850-3	なし
中学生の音楽2・3 上	教育芸術社編	教育芸術社	978-4-87788-851-0	なし
中学生の音楽 2・3下	教育芸術社編	教育芸術社	978-4-87788-852-7	なし
参考資料	全訳ハノンピアノ教本			

科目名	鍵盤楽器演奏Ⅱ			担当教員	村田 睦美	
単位	1単位	講義区分	講義		ナンバリング	ED1MIM402
期待される学修成果	教科教育 自己形成					
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク					
実務経験						
実務経験を生かした授業内容						
到達目標及びテーマ	鍵盤楽器演奏Ⅰで学んだ基本的な演奏技能と表現をさらに高めることができる。バロック時代の作曲家の作品について、社会的な背景、演奏様式について理解し、その演奏に必要な技能と表現を身につけることができる。最終回に実施する実技の成果発表において暗譜で演奏することができる。					
授業の概要	受講生それぞれのピアノ演奏技能のレベルや進度に応じて、自分に合った課題曲を選択し、個人及びグループによる実技レッスンの形式で授業を進めていく。また作品に関する文献を読み、その歴史的、社会的な背景を踏まえながら解釈し、作品に対する理解を深める。取り組みの成果を発表し、演奏における解釈や表現についてグループで討論を行う。					

授業計画	
第1回	今までの学習を確認、各自の課題曲を設定
第2回	基本的な演奏技術のエクササイズⅠ
第3回	基本的な演奏技術のエクササイズⅡ
第4回	基本的な演奏技術の確認のための発表
第5回	チェンバロ講座・楽器体験（日程は移動する可能性あり）
第6回	J.S.バッハの作品の演奏Ⅰ 楽曲分析
第7回	J.S.バッハの作品の演奏Ⅱ 演奏表現
第8回	J.S.バッハの作品の演奏Ⅲ 暗譜
第9回	J.S.バッハの作品の演奏Ⅳ 仕上げ
第10回	J.S.バッハの作品の実技発表・グループ討論
第11回	各自で選曲したバロック作品の演奏Ⅰ 楽曲分析
第12回	各自で選曲したバロック作品の演奏Ⅱ 演奏表現
第13回	各自で選曲したバロック作品の演奏Ⅲ 暗譜
第14回	各自で選曲したバロック作品の演奏Ⅳ 仕上げ
第15回	各自で選曲したバロック作品の成果発表・グループ討論

事前学修	0.5時間	各回の授業時に次回までの課題を指示するので、それに沿って練習しておくこと。また作曲家や時代様式等、取り組んでいる作品について調べておくこと。
事後学修	0.5時間	各回の授業で教授された内容を楽譜に整理し、振り返りシートに記述する。課題箇所を練習し、その改善、克服に努めること。
フィードバックの方法	練習してきた課題曲について、レッスンを通して現在の学習課題がわかるようにフィードバックする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価	70%	実技の成果発表において、基本的な演奏技能や音楽表現を修得できたかを評価する。
上記以外の試験・平常点評価	30%	各回の授業に対して行ってくる予習の内容や取り組みを評価する。

補足事項	
------	--

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
バッハ：インヴェンションとシンフォニア	J.S.バッハ/市田儀一郎校訂	全音楽譜出版社	978-4-11-105080-2	他の版の使用も可
参考資料	全訳ハノンピアノ教本 授業時に適宜紹介する。			

科目名	鍵盤楽器演奏Ⅱ			担当教員	小見山 純一	
単位	1単位	講義区分	講義		ナンバリング	ED1MIM402
期待される学修成果	教科教育 自己形成					
アクティブラーニングの要素	グループワーク					
実務経験						
実務経験を生かした授業内容						
到達目標及びテーマ	鍵盤楽器演奏Ⅰで学んだ基本的な演奏技能と表現をさらに高めることができる。バロック時代の作曲家の作品について、社会的な背景、演奏様式について理解し、その演奏に必要な技能と表現を身につけることができる。最終回に実施する実技の成果発表において暗譜で演奏することができる。					
授業の概要	受講生それぞれのピアノ演奏技能のレベルや進度に応じて、自分に合った課題曲を選択し、個人及びグループによる実技レッスンの形式で授業を進めていく。また作品に関する文献を読み、その歴史的、社会的な背景を踏まえながら解釈し、作品に対する理解を深める。取り組みの成果を発表し、演奏における解釈や表現についてグループで討論を行う。					

授業計画	
第1回	今までの学習を確認、各自の課題曲を設定
第2回	基本的な演奏技術のエクササイズⅠ
第3回	基本的な演奏技術のエクササイズⅡ
第4回	基本的な演奏技術の確認のための発表
第5回	チェンバロ講座・楽器体験（日程は移動する可能性あり）
第6回	J.S.バッハの作品の演奏Ⅰ 楽曲分析
第7回	J.S.バッハの作品の演奏Ⅱ 演奏表現
第8回	J.S.バッハの作品の演奏Ⅲ 暗譜
第9回	J.S.バッハの作品の演奏Ⅳ 仕上げ
第10回	J.S.バッハの作品の実技発表・グループ討論
第11回	各自で選曲したバロック作品の演奏Ⅰ 楽曲分析
第12回	各自で選曲したバロック作品の演奏Ⅱ 演奏表現
第13回	各自で選曲したバロック作品の演奏Ⅲ 暗譜
第14回	各自で選曲したバロック作品の演奏Ⅳ 仕上げ
第15回	各自で選曲したバロック作品の成果発表・グループ討論

事前学修	0.5時間	各回の授業時に次回までの課題を指示するので、それに沿って練習しておくこと。また作曲家や時代様式等、取り組んでいる作品について調べておくこと。
事後学修	0.5時間	各回の授業で教授された内容を楽譜に整理し、振り返りシートに記述する。課題箇所を練習し、その改善、克服に努めること。
フィードバックの方法	練習してきた課題曲について、レッスンを通して現在の学習課題がわかるようにフィードバックする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価	70%	実技の成果発表において、基本的な演奏技能や音楽表現を修得できたかを評価する。
上記以外の試験・平常点評価	30%	各回の授業に対して行ってくる予習の内容や取り組みを評価する。

補足事項	
------	--

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
バッハ：インヴェンションと シンフォニア	J.S.バッハ/市田儀一郎校訂	全音楽譜出版社	978-4-11-105080-2	他の版の使用も可
参考資料	全訳ハノンピアノ教本 授業時に適宜紹介する。			

科目名	鍵盤楽器演奏Ⅱ			担当教員	鷺見 千鶴子	
単位	1単位	講義区分	講義		ナンバリング	ED1MIM402
期待される学修成果	教科教育 自己形成					
アクティブラーニングの要素	グループワーク					
実務経験						
実務経験を生かした授業内容						
到達目標及びテーマ	鍵盤楽器演奏Ⅰで学んだ基本的な演奏技能と表現をさらに高めることができる。バロック時代の作曲家の作品について、社会的な背景、演奏様式について理解し、その演奏に必要な技能と表現を身につけることができる。最終回に実施する実技の成果発表において暗譜で演奏することができる。					
授業の概要	受講生それぞれのピアノ演奏技能のレベルや進度に応じて、自分に合った課題曲を選択し、個人及びグループによる実技レッスンの形式で授業を進めていく。また作品に関する文献を読み、その歴史的、社会的な背景を踏まえながら解釈し、作品に対する理解を深める。取り組みの成果を発表し、演奏における解釈や表現についてグループで討論を行う。					

授業計画	
第1回	今までの学習を確認、各自の課題曲を設定
第2回	基本的な演奏技術のエクササイズⅠ
第3回	基本的な演奏技術のエクササイズⅡ
第4回	基本的な演奏技術の確認のための発表
第5回	チェンバロ講座・楽器体験（日程は移動する可能性あり）
第6回	J.S.バッハの作品の演奏Ⅰ 楽曲分析
第7回	J.S.バッハの作品の演奏Ⅱ 演奏表現
第8回	J.S.バッハの作品の演奏Ⅲ 暗譜
第9回	J.S.バッハの作品の演奏Ⅳ 仕上げ
第10回	J.S.バッハの作品の実技発表・グループ討論
第11回	各自で選曲したバロック作品の演奏Ⅰ 楽曲分析
第12回	各自で選曲したバロック作品の演奏Ⅱ 演奏表現
第13回	各自で選曲したバロック作品の演奏Ⅲ 暗譜
第14回	各自で選曲したバロック作品の演奏Ⅳ 仕上げ
第15回	各自で選曲したバロック作品の成果発表・グループ討論

事前学修	0.5時間	各回の授業時に次回までの課題を指示するので、それに沿って練習しておくこと。また作曲家や時代様式等、取り組んでいる作品について調べておくこと。
事後学修	0.5時間	各回の授業で教授された内容を楽譜に整理し、振り返りシートに記述する。課題箇所を練習し、その改善、克服に努めること。
フィードバックの方法	練習してきた課題曲について、レッスンを通して現在の学習課題がわかるようにフィードバックする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価	70%	実技の成果発表において、基本的な演奏技能や音楽表現を修得できたかを評価する。
上記以外の試験・平常点評価	30%	各回の授業に対して行ってくる予習の内容や取り組みを評価する。

補足事項	
------	--

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
バッハ：インヴェンションと シンフォニア	J.S.バッハ/市田儀一郎校訂	全音楽譜出版社	978-4-11-105080-2	他の版の使用も可
参考資料	全訳ハノンピアノ教本 授業時に適宜紹介する。			

科目名	鍵盤楽器演奏Ⅱ			担当教員	宮川 左知子	
単位	1単位	講義区分	講義		ナンバリング	ED1MIM402
期待される学修成果	教科教育 自己形成					
アクティブラーニングの要素	グループワーク					
実務経験						
実務経験を生かした授業内容						
到達目標及びテーマ	鍵盤楽器演奏Ⅰで学んだ基本的な演奏技能と表現をさらに高めることができる。バロック時代の作曲家の作品について、社会的な背景、演奏様式について理解し、その演奏に必要な技能と表現を身につけることができる。最終回に実施する実技の成果発表において暗譜で演奏することができる。					
授業の概要	受講生それぞれのピアノ演奏技能のレベルや進度に応じて、自分に合った課題曲を選択し、個人及びグループによる実技レッスンの形式で授業を進めていく。また作品に関する文献を読み、その歴史的、社会的な背景を踏まえながら解釈し、作品に対する理解を深める。取り組みの成果を発表し、演奏における解釈や表現についてグループで討論を行う。					

授業計画	
第1回	今までの学習を確認、各自の課題曲を設定
第2回	基本的な演奏技術のエクササイズⅠ
第3回	基本的な演奏技術のエクササイズⅡ
第4回	基本的な演奏技術の確認のための発表
第5回	チェンバロ講座・楽器体験（日程は移動する可能性あり）
第6回	J.S.バッハの作品の演奏Ⅰ 楽曲分析
第7回	J.S.バッハの作品の演奏Ⅱ 演奏表現
第8回	J.S.バッハの作品の演奏Ⅲ 暗譜
第9回	J.S.バッハの作品の演奏Ⅳ 仕上げ
第10回	J.S.バッハの作品の実技発表・グループ討論
第11回	各自で選曲したバロック作品の演奏Ⅰ 楽曲分析
第12回	各自で選曲したバロック作品の演奏Ⅱ 演奏表現
第13回	各自で選曲したバロック作品の演奏Ⅲ 暗譜
第14回	各自で選曲したバロック作品の演奏Ⅳ 仕上げ
第15回	各自で選曲したバロック作品の成果発表・グループ討論

事前学修	0.5時間	各回の授業時に次回までの課題を指示するので、それに沿って練習しておくこと。また作曲家や時代様式等、取り組んでいる作品について調べておくこと。
事後学修	0.5時間	各回の授業で教授された内容を楽譜に整理し、振り返りシートに記述する。課題箇所を練習し、その改善、克服に努めること。
フィードバックの方法	練習してきた課題曲について、レッスンを通して現在の学習課題がわかるようにフィードバックする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価	70%	実技の成果発表において、基本的な演奏技能や音楽表現を修得できたかを評価する。
上記以外の試験・平常点評価	30%	各回の授業に対して行ってくる予習の内容や取り組みを評価する。

補足事項	
------	--

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
バッハ：インヴェンションと シンフォニア	J.S.バッハ/市田儀一郎校訂	全音楽譜出版社	978-4-11-105080-2	他の版の使用も可
参考資料	全訳ハノンピアノ教本 授業時に適宜紹介する。			

科目名	鍵盤楽器演奏Ⅲ			担当教員	村田 睦美	
単位	1単位	講義区分	講義		ナンバリング	ED2MIM503
期待される学修成果	教科教育 態度					
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク					
実務経験						
実務経験を生かした授業内容						
到達目標及びテーマ	鍵盤楽器演奏Ⅱで学んだ知識、演奏技能と表現を活かしながら、古典派の作曲家の作品ついて、演奏に必要な技能と表現を習得することができる。第10回目に実施する実技発表において暗譜で演奏することができる。また、連弾については、共演者の音を意識して聴く力、共演者の演奏に合わせて適切に演奏する技術を習得できる。					
授業の概要	受講生のピアノ演奏技能のレベルや進度に応じて課題曲を選択し、個人及びグループによる実技レッスンの形式で授業を進めていく。取り組む作品に関する文献を読み、社会的な背景、演奏様式など、鍵盤楽器演奏Ⅱで学んできた音楽との違いを踏まえながら解釈し、理解を深める。取り組みの成果を発表し、演奏における解釈や表現についてグループで討論を行う。					

授業計画	
第1回	今までの学習成果を確認、各自の課題曲を設定
第2回	基本的な演奏技術のエクササイズⅠ
第3回	基本的な演奏技術のエクササイズⅡ
第4回	基本的な演奏技術の確認のための発表
第5回	古典派の作品の演奏Ⅰ 読譜のチェック
第6回	古典派の作品の演奏Ⅱ 楽曲分析
第7回	古典派の作品の演奏Ⅲ 演奏表現
第8回	古典派の作品の演奏Ⅳ 暗譜
第9回	古典派の作品の演奏Ⅴ 仕上げ
第10回	古典派の作品の実技発表・グループ討論
第11回	連弾曲の演奏Ⅰ 連弾についての説明
第12回	連弾曲の演奏Ⅱ 楽曲分析
第13回	連弾曲の演奏Ⅲ 演奏表現
第14回	連弾曲の演奏Ⅳ 仕上げ
第15回	連弾の成果発表・グループ討論

事前学修	0.5時間	各回の授業時に次回までの課題を指示するので、それに沿って練習しておくこと。また作曲家や時代様式等、取り組んでいる作品について調べておくこと。
事後学修	0.5時間	各回の授業で教授された内容を楽譜に整理し、振り返りシートに記述する。課題箇所を練習し、その改善、克服に努めること。
フィードバックの方法	練習してきた課題曲について、レッスンを通して現在の学習課題がわかるようにフィードバックする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価	70%	実技の成果発表において、基本的な演奏技能や音楽表現を修得できたかを評価する。
上記以外の試験・平常点評価	30%	各回の授業に対して行ってくる予習の内容や取り組み、実技チェックを評価する。

補足事項	
------	--

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
ソナチネ アルバム 第1巻 初版および初期楽譜に基づく校訂版	今井顕校訂	全音楽譜出版社	978-4-11-101216-9	作曲家ごとのソナタの楽譜や他の版の使用も可
ソナチネ アルバム 第2巻 初版および初期楽譜に基づく校訂版	今井顕校訂	全音楽譜出版社	978-4-11-101217-6	作曲家ごとのソナタの楽譜や他の版の使用も可
ソナタ アルバム 第1巻 原典版準拠	今井顕校訂	全音楽譜出版社	978-4-11-101226-8	作曲家ごとのソナタの楽譜や他の版の使用も可
ソナタ アルバム 第2巻 原典版準拠	今井顕校訂	全音楽譜出版社	978-4-11-101227-5	作曲家ごとのソナタの楽譜や他の版の使用も可
参考資料	全訳ハノンピアノ教本 授業時に適宜紹介する。			

科目名	鍵盤楽器演奏Ⅲ			担当教員	小見山 純一	
単位	1単位	講義区分	講義		ナンバリング	ED2MIM503
期待される学修成果	教科教育 態度					
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク					
実務経験						
実務経験を生かした授業内容						
到達目標及びテーマ	鍵盤楽器演奏Ⅱで学んだ知識、演奏技能と表現を活かしながら、古典派の作曲家の作品ついて、演奏に必要な技能と表現を習得することができる。第10回目を実施する実技発表において暗譜で演奏することができる。また、連弾については、共演者の音を意識して聴く力、共演者の演奏に合わせて適切に演奏する技術を習得できる。					
授業の概要	受講生のピアノ演奏技能のレベルや進度に応じて課題曲を選択し、個人及びグループによる実技レッスンの形式で授業を進めていく。取り組む作品に関する文献を読み、社会的な背景、演奏様式など、鍵盤楽器演奏Ⅱで学んできた音楽との違いを踏まえながら解釈し、理解を深める。取り組みの成果を発表し、演奏における解釈や表現についてグループで討論を行う。					

授業計画	
第1回	今までの学習成果を確認、各自の課題曲を設定
第2回	基本的な演奏技術のエクササイズⅠ
第3回	基本的な演奏技術のエクササイズⅡ
第4回	基本的な演奏技術の確認のための発表
第5回	古典派の作品の演奏Ⅰ 読譜のチェック
第6回	古典派の作品の演奏Ⅱ 楽曲分析
第7回	古典派の作品の演奏Ⅲ 演奏表現
第8回	古典派の作品の演奏Ⅳ 暗譜
第9回	古典派の作品の演奏Ⅴ 仕上げ
第10回	古典派の作品の実技発表・グループ討論
第11回	連弾曲の演奏Ⅰ 連弾についての説明
第12回	連弾曲の演奏Ⅱ 楽曲分析
第13回	連弾曲の演奏Ⅲ 演奏表現
第14回	連弾曲の演奏Ⅳ 仕上げ
第15回	連弾の成果発表・グループ討論

事前学修	0.5時間	各回の授業時に次回までの課題を指示するので、それに沿って練習しておくこと。また作曲家や時代様式等、取り組んでいる作品について調べておくこと。
事後学修	0.5時間	各回の授業で教授された内容を楽譜に整理し、振り返りシートに記述する。課題箇所を練習し、その改善、克服に努めること。
フィードバックの方法	練習してきた課題曲について、レッスンを通して現在の学習課題がわかるようにフィードバックする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価	70%	実技の成果発表において、基本的な演奏技能や音楽表現を修得できたかを評価する。
上記以外の試験・平常点評価	30%	各回の授業に対して行ってくる予習の内容や取り組み、実技チェックを評価する。

補足事項	
------	--

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
ソナチネ アルバム 第1巻 初版および初期楽譜に基づく校訂版	今井顕校訂	全音楽譜出版社	978-4-11-101216-9	作曲家ごとのソナタの楽譜や他の版の使用も可
ソナチネ アルバム 第2巻 初版および初期楽譜に基づく校訂版	今井顕校訂	全音楽譜出版社	978-4-11-101217-6	作曲家ごとのソナタの楽譜や他の版の使用も可
ソナタ アルバム 第1巻 原典版準拠	今井顕校訂	全音楽譜出版社	978-4-11-101226-8	作曲家ごとのソナタの楽譜や他の版の使用も可
ソナタ アルバム 第2巻 原典版準拠	今井顕校訂	全音楽譜出版社	978-4-11-101227-5	作曲家ごとのソナタの楽譜や他の版の使用も可
参考資料	全訳ハノンピアノ教本 授業時に適宜紹介する。			

科目名	鍵盤楽器演奏Ⅲ			担当教員	鷺見 千鶴子	
単位	1単位	講義区分			ナンバリング	ED2MIM503
期待される学修成果	教科教育 態度					
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク					
実務経験						
実務経験を生かした授業内容						
到達目標及びテーマ	鍵盤楽器演奏Ⅱで学んだ知識、演奏技能と表現を活かしながら、古典派の作曲家の作品ついて、演奏に必要な技能と表現を習得することができる。第10回目に実施する実技発表において暗譜で演奏することができる。また、連弾については、共演者の音を意識して聴く力、共演者の演奏に合わせて適切に演奏する技術を習得できる。					
授業の概要	受講生のピアノ演奏技能のレベルや進度に応じて課題曲を選択し、個人及びグループによる実技レッスンの形式で授業を進めていく。取り組む作品に関する文献を読み、社会的な背景、演奏様式など、鍵盤楽器演奏Ⅱで学んできた音楽との違いを踏まえながら解釈し、理解を深める。取り組みの成果を発表し、演奏における解釈や表現についてグループで討論を行う。					

授業計画	
第1回	今までの学習成果を確認、各自の課題曲を設定
第2回	基本的な演奏技術のエクササイズⅠ
第3回	基本的な演奏技術のエクササイズⅡ
第4回	基本的な演奏技術の確認のための発表
第5回	古典派の作品の演奏Ⅰ 読譜のチェック
第6回	古典派の作品の演奏Ⅱ 楽曲分析
第7回	古典派の作品の演奏Ⅲ 演奏表現
第8回	古典派の作品の演奏Ⅳ 暗譜
第9回	古典派の作品の演奏Ⅴ 仕上げ
第10回	古典派の作品の実技発表・グループ討論
第11回	連弾曲の演奏Ⅰ 連弾についての説明
第12回	連弾曲の演奏Ⅱ 楽曲分析
第13回	連弾曲の演奏Ⅲ 演奏表現
第14回	連弾曲の演奏Ⅳ 仕上げ
第15回	連弾の成果発表・グループ討論

事前学修	0.5時間	各回の授業時に次回までの課題を指示するので、それに沿って練習しておくこと。また作曲家や時代様式等、取り組んでいる作品について調べておくこと。
事後学修	0.5時間	各回の授業で教授された内容を楽譜に整理し、振り返りシートに記述する。課題箇所を練習し、その改善、克服に努めること。
フィードバックの方法	練習してきた課題曲について、レッスンを通して現在の学習課題がわかるようにフィードバックする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価	70%	実技の成果発表において、基本的な演奏技能や音楽表現を修得できたかを評価する。
上記以外の試験・平常点評価	30%	各回の授業に対して行ってくる予習の内容や取り組み、実技チェックを評価する。

補足事項	
------	--

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
ソナチネ アルバム 第1巻 初版および初期楽譜に基づく校訂版	今井顕校訂	全音楽譜出版社	978-4-11-101216-9	作曲家ごとのソナタの楽譜や他の版の使用も可
ソナチネ アルバム 第2巻 初版および初期楽譜に基づく校訂版	今井顕校訂	全音楽譜出版社	978-4-11-101217-6	作曲家ごとのソナタの楽譜や他の版の使用も可
ソナタ アルバム 第1巻 原典版準拠	今井顕校訂	全音楽譜出版社	978-4-11-101226-8	作曲家ごとのソナタの楽譜や他の版の使用も可
ソナタ アルバム 第2巻 原典版準拠	今井顕校訂	全音楽譜出版社	978-4-11-101227-5	作曲家ごとのソナタの楽譜や他の版の使用も可
参考資料	全訳ハノンピアノ教本 授業時に適宜紹介する。			

科目名	鍵盤楽器演奏Ⅲ			担当教員	市野 啓子	
単位	1単位	講義区分			ナンバリング	ED2MIM503
期待される学修成果	教科教育 態度					
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク					
実務経験						
実務経験を生かした授業内容						
到達目標及びテーマ	鍵盤楽器演奏Ⅱで学んだ知識、演奏技能と表現を活かしながら、古典派の作曲家の作品ついて、演奏に必要な技能と表現を習得することができる。第10回目を実施する実技発表において暗譜で演奏することができる。また、連弾については、共演者の音を意識して聴く力、共演者の演奏に合わせて適切に演奏する技術を習得できる。					
授業の概要	受講生のピアノ演奏技能のレベルや進度に応じて課題曲を選択し、個人及びグループによる実技レッスンの形式で授業を進めていく。取り組む作品に関する文献を読み、社会的な背景、演奏様式など、鍵盤楽器演奏Ⅱで学んできた音楽との違いを踏まえながら解釈し、理解を深める。取り組みの成果を発表し、演奏における解釈や表現についてグループで討論を行う。					

授業計画	
第1回	今までの学習成果を確認、各自の課題曲を設定
第2回	基本的な演奏技術のエクササイズⅠ
第3回	基本的な演奏技術のエクササイズⅡ
第4回	基本的な演奏技術の確認のための発表
第5回	古典派の作品の演奏Ⅰ 読譜のチェック
第6回	古典派の作品の演奏Ⅱ 楽曲分析
第7回	古典派の作品の演奏Ⅲ 演奏表現
第8回	古典派の作品の演奏Ⅳ 暗譜
第9回	古典派の作品の演奏Ⅴ 仕上げ
第10回	古典派の作品の実技発表・グループ討論
第11回	連弾曲の演奏Ⅰ 連弾についての説明
第12回	連弾曲の演奏Ⅱ 楽曲分析
第13回	連弾曲の演奏Ⅲ 演奏表現
第14回	連弾曲の演奏Ⅳ 仕上げ
第15回	連弾の成果発表・グループ討論

事前学修	0.5時間	各回の授業時に次回までの課題を指示するので、それに沿って練習しておくこと。また作曲家や時代様式等、取り組んでいる作品について調べておくこと。
事後学修	0.5時間	各回の授業で教授された内容を楽譜に整理し、振り返りシートに記述する。課題箇所を練習し、その改善、克服に努めること。
フィードバックの方法	練習してきた課題曲について、レッスンを通して現在の学習課題がわかるようにフィードバックする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価	70%	実技の成果発表において、基本的な演奏技能や音楽表現を修得できたかを評価する。
上記以外の試験・平常点評価	30%	各回の授業に対して行ってくる予習の内容や取り組み、実技チェックを評価する。

補足事項	
------	--

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
ソナチネ アルバム 第1巻 初版および初期楽譜に基づく校訂版	今井顕校訂	全音楽譜出版社	978-4-11-101216-9	作曲家ごとのソナタの楽譜や他の版の使用も可
ソナチネ アルバム 第2巻 初版および初期楽譜に基づく校訂版	今井顕校訂	全音楽譜出版社	978-4-11-101217-6	作曲家ごとのソナタの楽譜や他の版の使用も可
ソナタ アルバム 第1巻 原典版準拠	今井顕校訂	全音楽譜出版社	978-4-11-101226-8	作曲家ごとのソナタの楽譜や他の版の使用も可
ソナタ アルバム 第2巻 原典版準拠	今井顕校訂	全音楽譜出版社	978-4-11-101227-5	作曲家ごとのソナタの楽譜や他の版の使用も可
参考資料	全訳ハノンピアノ教本 授業時に適宜紹介する。			

科目名	鍵盤楽器演奏Ⅳ			担当教員	村田 睦美	
単位	1単位	講義区分	講義		ナンバリング	ED2MIM504
期待される学修成果	教科教育 態度					
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク					
実務経験						
実務経験を生かした授業内容						
到達目標及びテーマ	鍵盤楽器演奏Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを通して習得してきた演奏技能と表現をさらに深めていく。ロマン派以降の様々な作曲家の作品に取り組み、その作品の演奏に適切な技能と表現を習得することができる。第10回目に実施する実技発表において暗譜で演奏することができる。第11回目以降は、独奏、伴奏、アンサンブルのいずれかの演奏において必要な演奏技術と表現を習得することができる。					
授業の概要	受講生のピアノ演奏技能のレベルや進度に応じて課題曲を選択し、個人及びグループによる実技レッスンの形式で授業を進めていく。作品に関する文献を読み、社会的な背景、演奏様式など、これまでの鍵盤楽器演奏の授業で学んできた音楽との違いを踏まえながら解釈し、理解を深める。第11回目以降は、ピアノ独奏コース、伴奏コース、アンサンブルコースの中から自分で一つのコースを選択する。取り組みの成果を発表し、演奏における解釈や表現についてグループで討論を行う。					

授業計画	
第1回	今までの学習成果の確認、各自の課題曲、コースを設定
第2回	基本的な演奏技術のエクササイズⅠ
第3回	基本的な演奏技術のエクササイズⅡ
第4回	基本的な演奏技術の確認のための発表
第5回	ロマン派以降の作品の演奏Ⅰ 読譜のチェック
第6回	ロマン派以降の作品の演奏Ⅱ 楽曲分析
第7回	ロマン派以降の作品の演奏Ⅲ 演奏表現
第8回	ロマン派以降の作品の演奏Ⅳ 暗譜
第9回	ロマン派以降の作品の演奏Ⅴ 仕上げ
第10回	ロマン派以降の作品の実技発表・グループ討論
第11回	選択したコース（ピアノ独奏・伴奏・アンサンブル）の演奏Ⅰ それぞれのコースの基礎知識
第12回	選択したコース（ピアノ独奏・伴奏・アンサンブル）の演奏Ⅱ 楽曲分析
第13回	選択したコース（ピアノ独奏・伴奏・アンサンブル）の演奏Ⅲ 演奏表現
第14回	選択したコース（ピアノ独奏・伴奏・アンサンブル）の演奏Ⅳ 仕上げ
第15回	選択したコースの成果発表・グループ討論

事前学修	0.5時間	各回の授業時に次回までの課題を指示するので、それに沿って練習しておくこと。また作曲家や時代様式等、取り組んでいる作品について調べておくこと。
事後学修	0.5時間	各回の授業で教授された内容を楽譜に整理し、振り返りシートに記述する。課題箇所を練習し、その改善、克服に努めること。
フィードバックの方法	練習してきた課題曲について、レッスンを通して現在の学習課題がわかるようにフィードバックする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価	70%	実技の成果発表において、基本的な演奏技能や音楽表現を修得できたかを評価する。

上記以外の試験・平常点評価	30%	各回の授業に対して行ってくる予習の内容や取り組みを評価する。
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
授業時に適宜指定する	なし	なし	なし	なし
参考資料	全訳ハノンピアノ教本 授業時に適宜紹介する。			

科目名	鍵盤楽器演奏Ⅳ			担当教員	小見山 純一	
単位	1単位	講義区分	講義		ナンバリング	ED2MIM504
期待される学修成果	教科教育 態度					
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク					
実務経験						
実務経験を生かした授業内容						
到達目標及びテーマ	鍵盤楽器演奏Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを通して習得してきた演奏技能と表現をさらに深めていく。ロマン派以降の様々な作曲家の作品に取り組み、その作品の演奏に適切な技能と表現を習得することができる。第10回目に実施する実技発表において暗譜で演奏することができる。第11回目以降は、独奏、伴奏、アンサンブルのいずれかの演奏において必要な演奏技術と表現を習得することができる。					
授業の概要	受講生のピアノ演奏技能のレベルや進度に応じて課題曲を選択し、個人及びグループによる実技レッスンの形式で授業を進めていく。作品に関する文献を読み、社会的な背景、演奏様式など、これまでの鍵盤楽器演奏の授業で学んできた音楽との違いを踏まえながら解釈し、理解を深める。第11回目以降は、ピアノ独奏コース、伴奏コース、アンサンブルコースの中から自分で一つのコースを選択する。取り組みの成果を発表し、演奏における解釈や表現についてグループで討論を行う。					

授業計画	
第1回	今までの学習成果の確認、各自の課題曲、コースを設定
第2回	基本的な演奏技術のエクササイズⅠ
第3回	基本的な演奏技術のエクササイズⅡ
第4回	基本的な演奏技術の確認のための発表
第5回	ロマン派以降の作品の演奏Ⅰ 読譜のチェック
第6回	ロマン派以降の作品の演奏Ⅱ 楽曲分析
第7回	ロマン派以降の作品の演奏Ⅲ 演奏表現
第8回	ロマン派以降の作品の演奏Ⅳ 暗譜
第9回	ロマン派以降の作品の演奏Ⅴ 仕上げ
第10回	ロマン派以降の作品の実技発表・グループ討論
第11回	選択したコース（ピアノ独奏・伴奏・アンサンブル）の演奏Ⅰ それぞれのコースの基礎知識
第12回	選択したコース（ピアノ独奏・伴奏・アンサンブル）の演奏Ⅱ 楽曲分析
第13回	選択したコース（ピアノ独奏・伴奏・アンサンブル）の演奏Ⅲ 演奏表現
第14回	選択したコース（ピアノ独奏・伴奏・アンサンブル）の演奏Ⅳ 仕上げ
第15回	選択したコースの成果発表・グループ討論

事前学修	0.5時間	各回の授業時に次回までの課題を指示するので、それに沿って練習しておくこと。また作曲家や時代様式等、取り組んでいる作品について調べておくこと。
事後学修	0.5時間	各回の授業で教授された内容を楽譜に整理し、振り返りシートに記述する。課題箇所を練習し、その改善、克服に努めること。
フィードバックの方法	練習してきた課題曲について、レッスンを通して現在の学習課題がわかるようにフィードバックする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価	70%	実技の成果発表において、基本的な演奏技能や音楽表現を修得できたかを評価する。

上記以外の試験・平常点評価	30%	各回の授業に対して行ってくる予習の内容や取り組みを評価する。
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
授業時に適宜指定する	なし	なし	なし	なし
参考資料	全訳ハノンピアノ教本 授業時に適宜紹介する。			

科目名	鍵盤楽器演奏Ⅳ			担当教員	宮川 左知子	
単位	1単位	講義区分	講義		ナンバリング	ED2MIM504
期待される学修成果	教科教育 態度					
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク					
実務経験						
実務経験を生かした授業内容						
到達目標及びテーマ	鍵盤楽器演奏Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを通して習得してきた演奏技能と表現をさらに深めていく。ロマン派以降の様々な作曲家の作品に取り組み、その作品の演奏に適切な技能と表現を習得することができる。第10回目に実施する実技発表において暗譜で演奏することができる。第11回目以降は、独奏、伴奏、アンサンブルのいずれかの演奏において必要な演奏技術と表現を習得することができる。					
授業の概要	受講生のピアノ演奏技能のレベルや進度に応じて課題曲を選択し、個人及びグループによる実技レッスンの形式で授業を進めていく。作品に関する文献を読み、社会的な背景、演奏様式など、これまでの鍵盤楽器演奏の授業で学んできた音楽との違いを踏まえながら解釈し、理解を深める。第11回目以降は、ピアノ独奏コース、伴奏コース、アンサンブルコースの中から自分で一つのコースを選択する。取り組みの成果を発表し、演奏における解釈や表現についてグループで討論を行う。					

授業計画	
第1回	今までの学習成果の確認、各自の課題曲、コースを設定
第2回	基本的な演奏技術のエクササイズⅠ
第3回	基本的な演奏技術のエクササイズⅡ
第4回	基本的な演奏技術の確認のための発表
第5回	ロマン派以降の作品の演奏Ⅰ 読譜のチェック
第6回	ロマン派以降の作品の演奏Ⅱ 楽曲分析
第7回	ロマン派以降の作品の演奏Ⅲ 演奏表現
第8回	ロマン派以降の作品の演奏Ⅳ 暗譜
第9回	ロマン派以降の作品の演奏Ⅴ 仕上げ
第10回	ロマン派以降の作品の実技発表・グループ討論
第11回	選択したコース（ピアノ独奏・伴奏・アンサンブル）の演奏Ⅰ それぞれのコースの基礎知識
第12回	選択したコース（ピアノ独奏・伴奏・アンサンブル）の演奏Ⅱ 楽曲分析
第13回	選択したコース（ピアノ独奏・伴奏・アンサンブル）の演奏Ⅲ 演奏表現
第14回	選択したコース（ピアノ独奏・伴奏・アンサンブル）の演奏Ⅳ 仕上げ
第15回	選択したコースの成果発表・グループ討論

事前学修	0.5時間	各回の授業時に次回までの課題を指示するので、それに沿って練習しておくこと。また作曲家や時代様式等、取り組んでいる作品について調べておくこと。
事後学修	0.5時間	各回の授業で教授された内容を楽譜に整理し、振り返りシートに記述する。課題箇所を練習し、その改善、克服に努めること。
フィードバックの方法	練習してきた課題曲について、レッスンを通して現在の学習課題がわかるようにフィードバックする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価	70%	実技の成果発表において、基本的な演奏技能や音楽表現を修得できたかを評価する。

上記以外の試験・平常点評価	30%	各回の授業に対して行ってくる予習の内容や取り組みを評価する。
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
授業時に適宜指定する	なし	なし	なし	なし
参考資料	全訳ハノンピアノ教本 授業時に適宜紹介する。			

科目名	鍵盤楽器演奏Ⅳ			担当教員	鷺見 千鶴子	
単位	1単位	講義区分	講義		ナンバリング	ED2MIM504
期待される学修成果	教科教育 態度					
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク					
実務経験						
実務経験を生かした授業内容						
到達目標及びテーマ	鍵盤楽器演奏Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを通して習得してきた演奏技能と表現をさらに深めていく。ロマン派以降の様々な作曲家の作品に取り組み、その作品の演奏に適切な技能と表現を習得することができる。第10回目に実施する実技発表において暗譜で演奏することができる。第11回目以降は、独奏、伴奏、アンサンブルのいずれかの演奏において必要な演奏技術と表現を習得することができる。					
授業の概要	受講生のピアノ演奏技能のレベルや進度に応じて課題曲を選択し、個人及びグループによる実技レッスンの形式で授業を進めていく。作品に関する文献を読み、社会的な背景、演奏様式など、これまでの鍵盤楽器演奏の授業で学んできた音楽との違いを踏まえながら解釈し、理解を深める。第11回目以降は、ピアノ独奏コース、伴奏コース、アンサンブルコースの中から自分で一つのコースを選択する。取り組みの成果を発表し、演奏における解釈や表現についてグループで討論を行う。					

授業計画	
第1回	今までの学習成果の確認、各自の課題曲、コースを設定
第2回	基本的な演奏技術のエクササイズⅠ
第3回	基本的な演奏技術のエクササイズⅡ
第4回	基本的な演奏技術の確認のための発表
第5回	ロマン派以降の作品の演奏Ⅰ 読譜のチェック
第6回	ロマン派以降の作品の演奏Ⅱ 楽曲分析
第7回	ロマン派以降の作品の演奏Ⅲ 演奏表現
第8回	ロマン派以降の作品の演奏Ⅳ 暗譜
第9回	ロマン派以降の作品の演奏Ⅴ 仕上げ
第10回	ロマン派以降の作品の実技発表・グループ討論
第11回	選択したコース（ピアノ独奏・伴奏・アンサンブル）の演奏Ⅰ それぞれのコースの基礎知識
第12回	選択したコース（ピアノ独奏・伴奏・アンサンブル）の演奏Ⅱ 楽曲分析
第13回	選択したコース（ピアノ独奏・伴奏・アンサンブル）の演奏Ⅲ 演奏表現
第14回	選択したコース（ピアノ独奏・伴奏・アンサンブル）の演奏Ⅳ 仕上げ
第15回	選択したコースの成果発表・グループ討論

事前学修	0.5時間	各回の授業時に次回までの課題を指示するので、それに沿って練習しておくこと。また作曲家や時代様式等、取り組んでいる作品について調べておくこと。
事後学修	0.5時間	各回の授業で教授された内容を楽譜に整理し、振り返りシートに記述する。課題箇所を練習し、その改善、克服に努めること。
フィードバックの方法	練習してきた課題曲について、レッスンを通して現在の学習課題がわかるようにフィードバックする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価	70%	実技の成果発表において、基本的な演奏技能や音楽表現を修得できたかを評価する。

上記以外の試験・平常点評価	30%	各回の授業に対して行ってくる予習の内容や取り組みを評価する。
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
授業時に適宜指定する	なし	なし	なし	なし
参考資料	全訳ハノンピアノ教本 授業時に適宜紹介する。			